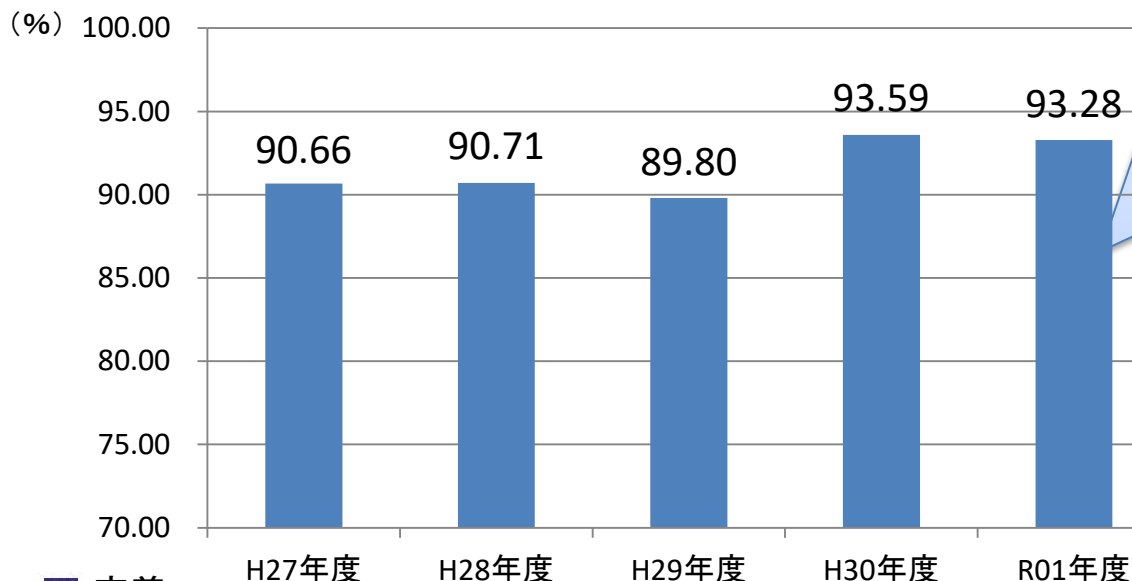


手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率

■ 解説: process指標

大地震時に発生するエコノミークラス症候群が肺塞栓症では良く知られていますが、脊椎手術、骨盤・下肢手術、帝王切開術などの手術後に発生することが多い疾患でもあり、当院では、弾性ストッキングの使用などの予防対策を適切に実施しています。

■ 当院の実績



《自己点検評価》

2009年に改訂されたガイドラインに記載されていますが、急性肺血栓塞栓症は、静脈、心臓内で形成された血栓が遊離して、急激に肺血管を閉塞することによって生じる疾患であり、その塞栓源の約90%以上は、下肢あるいは骨盤内静脈です。当院においては肺血栓塞栓症リスクが高い特定手術後の患者さんには、弾性ストッキング等の使用により、今後も引き続き肺塞栓症発生の予防対策を実施します。

■ 定義

肺塞栓症リスクの高い患者に対する、予防対策の実施割合です。

■ 算式

分子: 分母の患者に対する「肺血栓塞栓症予防管理料」の算定数

分母: 肺塞栓症リスクが高い特定手術の患者数(肺血栓塞栓症のリスクレベルが「中」以上)

- 参照文献・学会ガイドライン等: 肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン(2009年改訂版)